



徳山大学広報

学園台の風

第50号

平成20年10月10日 発行

学生生活のいま

徳山大学経済学部現代経済学科1年

橋本 拓也 さん（誠英高等学校出身）写真左端

徳山大学に入学して1年目の夏、オーストラリア語学研修へ行きました。そこでは、これまでにない感動がありました。見るもの、聞くこと的一切都りが新鮮であり、充実した時間を送ることができました。

発行 徳山大学
撮影・編集 中村道陽
山口県周南市学園台
TEL 0834-28-0411 (代)



豪州語学研修記

現代経済学科1年

橋本 拓也



私は今年の夏休み、徳山大学の海外語学研修プログラムを利用して、南半球にあるオーストラリアに行ってきました。オーストラリアは、英語圏であり、比較的治安がよいことから、研修先に選びました。

私が滞在したのはクィーンズランド州のブリスベンというところで、市内を流れるブリスベン川は日本の川と比べるとはるかに広大で流れがゆったりとした川でした。ブリスベン川では水上バイクを走らせることができるほど川幅に余裕があり、シテイ郊外にあるエキシビション会場には、それらに関する展示品に多くの人々が詰めかけていました。つまり、ブリスベンの人にとって川は大人でも十分に遊べる場所なのです。また、市内を運行するシテイキャットという名のフェリーでは、心地よい風を感じながら移動することができますなど、日本では決して体験することのできない、素晴らしい環境の中で過ごすことができました。

さて、まず言葉に関しての印象は、概して日本の公共交通機関の乗り物の中は静かです。バス、電車、フェリー



ーなど公共交通機関は通勤時間帯を除いて、絶え間なく会話が飛び交っています。そこでは、多くの人々が国籍に関わらず、気軽に話しかけられるような雰囲気が出来上がっています。このような中で、英語は公用語として、

世界一位の地位を獲得しており、自分がこれまで勉強してきたことも少なからず通用すると意気込んでいました。しかしながら、移民の多いオーストラリアの中では、さまざまな英語があり、中でもオーストラリア英語はこれまで、私が勉強してきたアメリカベースものとは発音や表現が違うものでした。たとえば、OKの発音の仕方ひとつにしても、正直なところ最初に聞いた時には、よく聞き取りにくいほどでした。



オーストラリアではインターナショナル語学スクールに三週間通いました。この学校には、確認できただけで、フランス、スイス、ハンガリー、ブラジル、台湾、韓国、そして日本人がいて、年齢も十代、二十代とさまざまでした。それぞれが目的を持

って、ある人は英語がおもしろいから、ある人は仕事で英語が必要になるからと理由はさまざまでした。こころも当然、各国には独特な発音の訛りがでてくることによって発音の仕方がことなることを知ると同時に慣れるまで時間がかかりました。それと、総じて思ったことですが、外国の人々は日本語、日本の芸能人の名前、日本料理など、日本に関するをよく知っていることです。日本のことについて、我々日本人より深く知っており、なおかつ、自国のことも知っているということに気付きました。私はこれまで他国の事に関心が薄く反省しました。授業時間以外は英語で話さなくてもよいので、第一言語で話すのが普通なのですが、聞きなれない言葉が聞こえてくるとやはり不安に感じました。しかし、英語という言語を介することによって、外国の人の思っていることや自分の思っていることを表現できる経験に感動しました。



オーストラリアは国土が日本の21倍もあります。そのような中で、オーストラリアの生活を通してすべてにゆとりがあると思えました。たとえば、博物館は吹き抜けてその中を水が流れ、非常にゆったりとしたスペースで絵を鑑賞することができます。また、ホームステイ先のすぐ家の近くは日本の小学校の校庭2面分はあるかと思うような広々とした公園が

島津周南市長の
声援響く！



島津周南市長（右）
池高理事長（左）

9月27日（土）周南市野球場において中国大学野球1部リーグの試合が行われ、本学硬式野球部は今シーズン好調の吉備国際大学と対戦。この試合に、島津周南市長が応援に駆けつけてくださいました。ゲームの結果は、市長さんの力強い声援もいただき、見事勝利をおさめました。島津市長及びスタンドの皆様、ご声援いただきありがとうございました。

全日本実業柔道で優勝！！



本学柔道部コーチで本学卒業生の近藤優子さんが8月末行われた全日本実業柔道個人選手権大会 52kg級で優勝し、11月に千葉で行われる、講道館杯全日本柔道体重別選手権大会の出場を決めました。更なる飛躍を期待したいと思います。

地域連携センター開設
— 地域とともに歩む徳山大学 —

徳山大学では、これまで以上に地域との連携を深め、有機的な繋がりを深めていくために、9月1日地域連携センターを開設いたしました。地域連携センターの内容についてご紹介いたします。

1. 設立の目的

徳山大学は、地域とともに歩む大学として、周南市をはじめとする山口県内の教育機関や自治体、企業、NPO等との連携を強化し、山口県の中核的人材育成機関としての機能を一層高める必要があると考えます。このため、徳山大学は「地域連携センター」を設置し、周南地域をはじめとする地域社会への貢献を充実させるとともに、大学における教育・研究活動の一層の充実を図ります。

2. 位置づけ

徳山大学地域連携センターは、徳山大学が実施する地域連携活動について学内外の連絡・調整を図るため、総合的窓口として機能します。

3. 業務内容

- ① 地域連携活動に関する学内情報の一元的把握
- ② 情報紙やウェブサイト等を活用した地域連携活動の学内外への周知・PR
- ③ 地域連携活動に関する連絡調整
- ④ 地域連携活動に関する対外的な窓口機能
- ⑤ 地域連携プロジェクトの企画・立案

地域創発ワークショップ

地域連携センターでは地域に関するテーマの話題提供を行い、皆様と共に意見交換を行うワークショップを開催します。11月12月の予定をご紹介します。参加費は無料です。どうぞお気軽にご参加ください。

- 11月7日 大学と企業の協生 横谷正人准教授
- 11月21日 漫画・アニメによるプロモーション 戦略の立て方 なかはらかせ特任教授
- 12月5日 売れる仕組みづくり〜コンテンツ創発〜 臼井稔特任教授

※教員のプロフィール等は大学HPを
1参照ください。

こんなことを
連携すると
いいのでは？
というご意見も
お待ちしております



◎お問い合わせ先

徳山大学地域交流センター
電話 0834-28-0411(代)